

設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 平成27年 3月14日
(32号)



[事務局] 〒648-0094
橋本市三石台4-1-15
TEL 0736-38-3669
FAX 0736-38-3680
文責 事務長 宮本眞弓

人間学講座
第32講

「禅の教えに学ぶ」

横田南嶺 老師



■ 慈悲の心

禅の言葉というのは、短い中に非常に味わいあるものがたくさんあります。

松無古今色／竹有上下節（松に

古今の色なく竹に上下の節あり）

禅宗の寺では松の木を大切にしています。常緑樹である松の色というものは今も昔も変わることではない。どんな時代にあっても、変わることのない真実は必ずある。それを教えているのが仏教であり、禅の教えであろうと思います。

また、竹には節がある。竹はまっすぐ伸びるが、節がないことにはしっかりと伸びません。人生においてもこの節目が大切なのです。

仏心とはいかなるものか。それは、お釈迦様は涅槃経というお経のなかで「あらゆる人に対して慈悲の心で接することである」と説いてくださっています。単に煩惱を消す、自分自身の悩みや苦しみをなくすだけではなく、あらゆる人に対して慈しみの心を起こすことである、とはっきり示してくださっております。この慈悲の心こそ、松の色のように変わることのない色あせることのない教えです。最近お経の中で「慈恕」という言葉を知りました。慈は慈しみです。恕は「思いやり」であり「許してゆく広い心」です。

人というものは「されたくないこと」はおおよそ同じです。森信三先生は名僧のなかでもとりわけ慈雲尊者を重んじられました。慈雲尊者は、人となる道「十善戒」を大切にされました。これなどは「恕」の精神ではないか。不殺生・不偷盗・不邪淫・不妄語・不綺語・不悪口・不両舌・不慳貪・不瞋恚・不邪見：誰しも殺されたくないのであり、盗まれたくないのであり、傷つく言葉は言

われたくはない。だからしてはいけないのだ。これは簡明な真理です。

■ 元寇と無学祖元禪師

日本にとって、最初の国難は、元寇の戦いであつたでしょう。ユーラシア大陸のほぼ大半を占領した元の侵略はついに日本までやってきました。おそらくフビライ・ハンからすれば、日本のような小国はすぐに落とせると思つたことでしょう。ところがご存知のとおり、二度も攻撃をうけながら日本は滅ぼされることがなかったのです。当時対応したのが時の執権・北条時宗公です。十八で執権となり、三四で亡くなられるのですが、その人生はまさに元寇のために捧げたようなもの。北条時宗公のお墓は円覚寺にあります。時宗公を支えたのが無学祖元禪師（仏光国師）です。この方は中国の人です。その修行の経歴からも学ぶことは多く、最初は「無に徹する」。そして何百人と修行する中国の寺のトイレ掃除をやり続ける「下座行」の徹底、その後大成を嘱望されながら三〇歳から七年間を寺を出て、「孝養」母親の介護をされます。四〇を過ぎてから初めて中国の寺の住職につかれます。

乾坤孤筇を卓つるに地無し 喜得す人空法亦空なるを。珍重す大元三尺の剣、電光影裏、春風を斬る

元が中国に攻めてきたとき禪師は五一歳。兵士に刃をあてられても、泰然自若坐禅をしながらこの句を歌われたといわれています。意味は「この広い世界、（まわりを元の兵士に取り囲まれ）杖一本立てる隙間もないほどである。しかし自分は嬉しい。なぜなら私もあなた方も空である（いざ死に無に還る）。あなたがたは立派な国の兵士で立派な刀を振り上げているが、私の首を斬ったとしても、稲妻が春風を斬ったごとく、なんの跡形もない」。その肚の据わった様に兵士は恐れをなしたと伝えられています。

■ 怨親平等

北条時宗公は終始元に対して毅然たる態度をとられました。時宗公もまた若い頃から坐禅をされ、優れた禅僧の指導者を中国から招きたいと書状を出します。この自筆の書状は国の重要文化財として円覚寺にあります。その中に「樹は其の根あり。水は其の源有りと」とあります。国を守るにあたって、まず目に見えない根つこを張らねばならない。まず自分の身を修めることだ、と。

当時元からの使者がたびたび来るような大変な状況において、目に見えることだけを対応するのはなく、我が身を修めるといふ見えないことを考えるということは、学ぶべきことでありましよう。この書状によって無学祖元禪師は日本に来ることとなり、時宗公は禪師について学びます。

「莫煩惱」（元亨釈書巻八）

この言葉は、弘安四年、無学祖元禪師が時宗公に贈った言葉です。煩悩悩むことなかれ。国の重圧を背負う時宗公にとってはどれほどありがたい言葉だったでしょう。まさにこの年、二度目の元の襲来（弘安の役）となりますが、後に神風といわれる風に元の船の大半は沈み、元寇の戦いは終ります。

「此軍及び他軍、戦死と溺水と、萬衆無帰の魂、唯願わくは速やかに救拔して、皆苦海を超越することを得、法界了に差無く。怨親悉く平等ならんことを」（佛光録巻四）

日本の軍の人たちも攻めてきた元の軍の人たちも、戦死したり溺死したりと誰からも供養されることのない御霊であるが、この御霊を救い、この苦しみを超えて、いのちの世界で平等であれ、としました。

いのちはみんな平等。敵や味方の差のない、怨親平等は円覚寺創建の一番の精神であります。円覚寺では区別なく同様にお祀りし、ご供養を続けております。

（抄録 中川千都子）

《グループ討議》

横田南嶺老師の講義を拝聴したあと、講話の内容について、塾生各々がグループに分かれ討議。感動語録を発表しました。

【Aグループ】

① 「慈恕」の言葉

② 元寇↓敵も味方もなく、平等に供養する

③ 海のような広い心、空気のようにになりたい

【Bグループ】

① 「莫煩惱」↓ 煩悩悩むことなかれ

② 目に見えない力に、生命・人生が活かされている

③ 「怨親平等」⇨ 敵・味方なく、平等にこれらを愛憐する心をもつべき

【Cグループ】

① 「慈恕」

② こだわらない広い心「空気のように」

③ 無に徹する ⇨ 全てを受け入れる

【Dグループ】

① 「慈恕」の言葉を知った

② 松無古今色 竹有上下節

③ 慈しみ人を思いやる広い心

④ 自分にして欲しくないことは、人にしない

【Eグループ】

① 「怨親平等」

② 「慈恕」思いやりの心

③ 己の欲せざることを人に施すことなかれ



【塾生講話】

志村隆夫塾生

「世界何でも見てやろう!」と題し、志ネットワークの上甲晃氏を代表に、「世界から目を離すな! 第4弾!」トルコツアーに昨年の9月参加され、最大の都市イスタンブールを中心に旅行され、歴史・経済・文化・日本との関係など、観てこられた旅日記をスライドを交えお話し頂きました。

トルコは、世界で最も親日的な国の一つで、トルコ近代化の範を日本の明治維新に求めたアタチュルク(トルコの初代大統領)は、「日本に学べ」と国民に強く呼びかけた。これがトルコ人の親日感情の源である、と言われている。また、明治23年和歌山県串本近海で座礁沈没、地域の住民が救助した軍艦エルトゥール号の悲劇も親日の要因ともなっている。

山田寅次郎は、犠牲者とその家族達に送る義援金を募り、明治天皇の意向により「比叡」「金剛」二隻の軍艦で送り届けた。



【塾生講話】

宇田正徳塾生

宇田塾生からは、森信三先生の名言「逢うべき人には必ず逢える」と題して、「人間は一生のうち逢うべき人に必ず逢える。しかも、一瞬早すぎず、一瞬遅すぎない時に」のその時を4つの出合で、お話し頂きました。

○その1 愛原啓介さん

「大阪掃除に学ぶ会」へ参加してみませんか!。これが人生大きく変える始まりとなる。43歳にして初めて便器を素手で洗う!。

○その2 大谷育弘先生

阿倍野高校で教師が中心となった便教会を開催しているよ! 自宅のすぐ近くにある阿倍野高校では、大谷先生による日本有数の熱心な活動が展開されていた。

○その3 川島 渚さん

複写ハガキのセットを差し上げるので、一度試してみては?

川島さんとは、阿倍野高校と紀見小学校のトイレ掃

除でたった2回お会いしただけであるが、45歳の私の人生を劇的に変えてしまった方である。また、私の運命を変えた「復興地に学ぶ会」も川島さんからの影響を受けた。翌春、教員免許を取得するため夜間大学へ。大学入学のお礼の気持ちを込めて参加した、東北への復興ボランティアで、奇跡的に寺田先生とお知り合いになり、川島さんに教えて頂いた複写ハガキで先生と親交を深める。また、このときに大教大二部の学生さんや卒業生の方と知り合いになる。

○その4 寺田一清先生

ついに私の運命を決定づける人物が登場! 46歳から3年間の薫陶を受け、小学校の教師となる決意が固まる。48歳で会社を退職。お世話になった多くの方々へ退職のご報告をさせて頂き、24年間のお礼を申し上げる。

○小学校教師となることに!

「小学校の先生になってや! 小学校の先生に」という寺田先生のお言葉にしたがって、不転転の覚悟を胸に実践してまいります。

中山靖雄先生帰幽される

(平成27年3月8日)



追悼

中山靖雄先生とは、平成22年8月天分塾伊勢研修の下見打合せのため、寺田一清先生に同行伊勢修養団青少年研修センターを訪問いたしました。その折、中山先生病院へ検査に向かわれる多忙中、お時間をお取り頂きお目にかかることができました。

お二人の談笑の後、中山先生がこちらを向かれて、「あなたのお仕事は、何をされておられるのですか」とお尋ね頂き、天分塾で事務局を務めていることをお話し致しましたところ、中山先生から「人のお役に立つことですよ、ひと言この言葉をくわえてください」とお教え頂き、この言葉は、いつまでも強烈に頭の中に残っており何をすることにつけてもこの言葉が過ぎります。お別れの折りに、手を取って「がんばってください」と、激励の握手を頂いた時のあの手の温もりは忘れることができません。短い期間ではありますが、強烈な印象を残してください、教えを戴きました。ここよりお礼申し上げます。ありがとうございました。

安らかにお休みください。

宮本 記

天分塾 伊勢宿泊研修より

「悠久の天地を結ぶいせの道

無限むげんの底を湧かして」

中山 靖雄先生

(平成23年3月)

●先祖の血 みんな集めて 子は生まれ

生まれただけです。すごいんだ
生きてることがすばらしい

よく子ども達に話すんです。成績とかそういうのはどうでもいい。生まれただけです。何億もの精子のひとつだけ到着したのが子どもですね。子どもができるということは、神ごととしか言えないでしょう。それがずっと続いてきたからこそ、我々はこのに生きています。

伊勢というのは「いもおせ」なんです。天照大神が夫婦の道を説いた場所です。夫婦で来た人は、来ただけで合格点です。来年もし来られるなら、奥さんを一緒に連れて来てください。

●愛は欠陥を補う

知る事の深さは愛することへの道

言葉に出すことが必要です。良い事を言って、良い事を思っ、良い人になる。聖書でも「はじめに言葉ありき。」とあるでしょ。

そうだ そうだで そのようになる

なるほど なるほどで なるようになる

けっこう けっこうで けっこうになる

そうだとやっていけば、うまくいくのですよ。ところが我々は、「しかしね、でもね」とこういうことを言うのですよ。

●汗は万人を聖化する

良し悪しの中を流れて清水かな

福岡の仙厓さんというお坊さんが作られた俳句です。良し悪しにしないということです。川は岸に沿って流れるのではない

川の流れて流れて岸ができるのだ (東井義雄先生)

よく想定内・想定外だったと言いますが、天からみれば想定外はないということです。人間世界から見ると想定外があるのです。

仕事と職業

「あなたの仕事は何ですか。」と聞かれます。「私は学校の先生をしています。」と応える。これは良い先生も悪い先生も出来る。この間にひとつ言葉が入ります。

「人のお役に立つことです。」と。

●仮りの世に借りを返して帰り行く

尽くし果たしの道

あれも良しこれも又良し総て良し
この花咲かそう香りゆたかに

(そう思いたし心むつかし)

皆さん方ここに来てお行をされるのは、「そう思いたし心むつかし」そこを何とか修正してよくなるという思いからですね。これが本当の命だと思ったら、生きていくこととかそういうことにこだわらなくてもいいのですよ。それでもこだわります。理解は出来るけど納得はできない。これが今夜、一杯飲んだときにストンと二緒に入っていくのですね(笑)

(抄録 前田 知美)

《お薦め書籍》

『理想の小学教師像』

森信三 著



発行 致知出版社
価格 二, 四八四円(税込)
ISBN9784800910561

「理想の小学教師像」というタイトルのとおり、小学校の先生の魅力や喜びに始まり、子供たちへの挨拶の仕方、学級の作り方、板書の方法、名前の覚え方などが実に丁寧かつ具体的に語られている。

親として子供といかに接するか、さらには人間としていかに生きるべきか、といったことまで読み手に感じさせてしまうところが、稀代の教育者と言われる森信三師ならではのところ。

内容は深く示唆に富んでいるが、読めば思わず頬が緩むような親しみを感じるのには、授業を口述筆記したものだからだろう。本書も神戸大学で先生を目指す学生への授業を口述筆記したもので、目前に師が立って話しているような気持ちにさせてくれる。それもまた大きな魅力の一冊だ。

(致知出版社書籍紹介より)

森信三師

『修身教授録』に学んだこと

森信三師を尊敬してやまないお二人に、『修身教授録』にまつわる秘話とその教えの神髄をお話したく

1 浅井周英先生

「光を放つ『修身教授録』」

2 寺田一清先生

「女性のための『修身教授録』」

CD



浅井周英先生 寺田一清先生

発行 致知出版社

CD 2 毎組

価格 八, 六四〇円(税込)

《四月 人間学塾・中之島》

■基本カリキュラム

*日時 4月11日(土)

*場所 大阪大学中之島センター

10F 佐治敬三ホール

*講座 野口芳宏先生(植草学園大学教授)

「昭和天皇の御遺徳

―御製を中心に―」

1960年千葉県君津市に生まれる。1980年千葉大学教育学部(国語科専攻)卒業。公立小学校教諭、公立小学校教頭、校長を経て、1986年北海道教育大学教授(国語教育)。2001年北海道教育大学退官、同大学、麗澤大学各講師を経て、現在、植草学園大学名誉教授。千葉県教育委員。『野口芳宏著作集「鍛える国語教室」』(全23巻)、『小学生までに身につける子どもの作法』(PHP研究所)他、編著・監修著書等多数

《郊外学習へー参加ください》

今期の郊外学習は、四月二十九日(祝日)

「東井義雄先生のふる里を訪ねて」を企画いたしましたので、多数のご参加をお待ちいたしております。

場所 兵庫県豊岡市但東町

・東井義雄記念館

・東井義雄先生生家「東光寺」訪問

講話 東井浴子先生

寺田一清先生

(予定) 出石町探訪

昼食は―出石皿そば御膳

出石城跡↓辰鼓楼↓城下町散策

参加費 塾生 八, 五〇〇円

聴講 九, 五〇〇円

(現地へ直接参加の場合)

塾生 三, 五〇〇円

聴講 四, 五〇〇円

アクセス 往復 大型観光バス利用

近鉄難波ビル前

集合 午前8時50分

出発 午前9時00分

《學塾・中之島 第四期に向けて》

第三期も中盤から後半に入り、現在世話人会・事務局では第四期に向けて登壇講師選定に努めています。常任講師の先生方を含め、新たな講師の先生方との日程等の交渉に臨んでいます。

塾生各位の皆さまは、第四期への継続と入塾へ推薦くださる方々のご紹介に努めて頂きますようお願いいたします。

常任講師先生及び、新たに受諾頂きました先生の方々をご紹介しますので頂きます。

・鍵山秀三郎先生

・上甲 晃先生

・横田南嶺老師

・寺田一清先生

・相田一人館長

(相田みつを美術館館長)

・旭堂南左衛門師匠

(関西講談師協会会長)

・竹村亜希子先生

(中国古典「易经」研究家)

・今野華都子先生

(日本エステティック協会認定エステティシャン)

・ほか日程の調整等交渉しております。

◆今後の日程

・5月 入塾案内パンフレット作成・配布

「卒塾文集寄稿原稿募集案内」

・6月 一日・体験入塾(第3土曜)

・7月 四期への継続確認をさせていただきます。

・8月 第三期「卒塾式」

6月の「一日・体験入塾日」には、みなさま方からの入塾へのご紹介・勧誘によりまして会場が満杯となりますように!!。そして9月の第四期入塾式には、満杯の開場となりますように念じ、世話人会・事務局におきましても一層の努力をしますので、みなさま方のご協力の程、どうぞ宜しくお願いいたします。